

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第27回

| 発言状況等 | 内容区分 | | | 分野 | 発言要旨 | 主意 | I D |
|-----------|------|----|----|----------------------|---|---|------|
| | 質問 | 課題 | 提案 | | | | |
| 第27回流域委員会 | | | | 治水 (河川整備) | 資料-1の24ページのフローチャートですけれども、三つ書き方を検討していただきたいと思います。まず一つは、一番上の四角い箱二つですが、この説明で、降雨流出量あるいは実績計算の区別がされにくい。二つ目は、条件分岐しているひし形の中身です。1と2は種類が違うので、これを二つに分けた方がわかりやすいと思います。三つ目は最後の箱ですが、「各地点で大きい流量」の「大きい」は、もう少し正確な言い方がないか。 | 目標流量選定フローについては、もう少し内容をクリアにし、わかりやすい表現で整理した方がいい。 | 2701 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 例えば、一般市民から言いますと、河道断面という形で言葉だけで示されてもちょっとわからないので、余裕高はどれだけになっていてという、せめて1例そういうのが載っていると、視覚で見てもわかりやすくなるんじゃないかなと思います。これを一般市民対象の説明で使われるんだとしたら、それくらい親切なところがあるといいのではないかな。そういう一般市民の意見、声が出やすいような参考資料になるような図をちょっと加えていただけるといいかなと思います。 | 説明資料については、一般の方でもわかるように理解を促すような図の添付や専門用語の解説を加える等の配慮をした方がいい。 | 2702 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | この資料-1と資料-2の使い方はどういうふうに予定されていますか。読む対象によって、どれも細かくする必要はないと思います。説明を受けるものはどれなのか。また、そのどれをも同じように細かくすることはいいですね。その使い分けを明確にしておかないと、大部の資料ばかりだと困るんじゃないかと懸念しています。 | 資料については使い分けを明確にし、その目的に応じて作成した方がいい。 | 2703 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | まず基本的に、これが例えば専門的な人の範囲内であれば、こういったまとめ方でもいいと思うんですけれども、もしこれを一般の方も見たいという形で、見られるというのであれば、やはりちょっと専門用語的なものは後ろの方で説明を入れておいた方が無難じゃないかなと思います。もう少し、図はむしろわかりやすく大きく書かれた方が、まずぱっと見た印象でいけば、なるほど、わかりやすいというイメージを持っていただけたらいいかなと思います。それから、地図等も入っておりますけれども、全然文字が見えないということで、入れているんですけれども、読む人にかえて不可解なイメージを与えるんじゃないかという感じがいたします。 | 説明資料については、図・表やこれらに記載されている文字・数字を大きくわかりやすくし、もし一般の方も目にするのであれば、専門用語の解説を添付した方がいい。 | 2704 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 基本方針「川づくりの目標」の三つは、玉虫色の政治公約のような言い方で、視点がわかりにくいと思います。これまでこういう点について議論が不十分だったことも確かです。例えば、次の三つの視点を考えていただければと思います。一つは、利水、環境と治水は相入れないものです。2番目は、治水をする場合における経済と生命の問題です。3番目としては、「多様な方法で住民とのコンセンサスを得ながら対処していく」という視点がある。こういった点について、会議である程度合意を得、それをこういうパンフレットで最初に説明することが大事じゃないかなと思います。 | 「これからの川づくりの目標」については、委員会である程度合意を得た内容をこういうパンフレットで最初に説明した方がいい。 | 2705 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 今の意見で割と本質的なところが出てきていましたので、興味を持っています。こってりした議論というのは、まだ本当にはしていないような気が私はしています。いずれそのことはやりたいんですけども、ただ、今の段階で住民説明のパンフレットに入れていいものかどうか。口頭で説明するときにはそれは必要なんだろうけれども、このパンフレットの中でそういうふうな、例えば費用対効果の問題とか、治水と利水の対立するような概念的な考え方を入れることは、かなり挑戦的だと思いますが、非常にアジティブな感じはするのでもおもしろいと思うけれども。 | パンフレットの目標は概念的な話であり、例えば費用対効果の問題や、治水と利水の対立するような具体的な内容を含むことは難しいのではないかな。 | 2706 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 生命さえ守ればいい、治水さえやればいいという方向なのか、四分六とか、少し少ないけれども環境のことは忘れていないぞという視点なのか、とにかく環境を最優先するのか、委員会のスタンスを出しておく必要はあると思うんです。挑戦的ではなく、そういうことを考えていますよということを最初に説明すると、中身を真剣に聞いてくれるんじゃないかなと思った次第です。 | 住民説明会では、今後の河川整備をどのようなスタンスで考えているかを最初に説明した方が中身を真剣に聞いてくれるのではないかな。 | 2707 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | この資料が、流域委員会でのいろんな今までの意見も包括した上で、言うならば22人のメンバーからはこういう形も出ましたよという、本当だったら広い範囲のいろんな話題が出たのが住民に感じられるようなものでないかと、私はちょっと寂しいなという気がしてました。資料-1の方にしても、専門知識がある方に目を通していただいているというのは、私たちが今まで説明を受けたことを一般の方にわかっていただくというぐらいの感じのとらえ方でしかこの資料に関しては受け取れませんでしたし、この概要版に至ってもさらにそうなのかなという感じがしたんですね。その辺のところ、この目標の言葉は大いに変わってくると思うんです。 | 資料については、流域委員会で説明した資料が取りまとめられており、委員会で出された様々な意見が反映されているとは言い難いのではないかな。 | 2708 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | どうもこの部分を見ていますと、行政の言葉を使って、一番上の「となるべき」とか、委員会のメンバーも「経験を有する者」と書かれている。やっぱりそのところがちょっと行政的という感じがいたします。それから、先ほどから議論になっている「これからの川づくりの目標」も、どなたでもわかるようなわかりやすい言葉で、「洪水の水から守る」、それから「自然と一緒に」「我々の暮らした川」とか、何かそういうふうな形のキーワードといいますが、わかりやすい言葉を頭に持って置く。それから、まだ検討中なんですよということを頭に出しておけば参加しやすいと思うんです。 | パンフレットで使われている言葉が少し行政的なので、わかりやすい言葉や表現を心がけて欲しい。 | 2709 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 今日出された案は、行政側が住民に対して説明するための資料であろうと思いますので、余り委員会としてはこの案にこだわることなく、責任を行政側に渡して、どれだけわかりやすく住民に説明し、そしてその賛否を問うことができるかということ行政側が精進していただければいいものと思っております。今日の段階ではやはりこれぐらいでもって一般住民に意見を聞くという方向が妥当ではないかと考えます。 | パンフレットはあくまでも説明するための資料であることから、行政が住民に対してどれだけわかりやすく説明し、意見を聴取できるかがより重要である。 | 2710 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 「足羽川での治水対策の検討について」で、「そこで、九頭竜川流域委員会では」のところ、今後検討すべきことは、治水対策は流域全体でやる必要があるんだよということを皆さんに理解していただくことが重要になってくるかと思うんです。いろいろところで、この流域全体で総合的に治水対策を考えないとうまく処理できないのかなということになりますね。そのために、やはり上流、中流、下流の人たちのコンセンサスが得られるような治水対策。これは非常に今から難しい問題になっていくのかと思うんですけれども、それをやはり暗に何らかの文章で示してあげないと、なぜそういう河道外、河道内、あるいは上流、中流、下流のいろんなところで洪水対策をしないといけないのかということが読み取れないと思われそうです。 | 「考える複数の治水対策(案)」では、治水対策は流域全体で取り組む必要があり、そのために複数の案を検討する必要があることを理解してもらったことが重要である。 | 2711 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 最初から川づくりの目標についてこだわっている部分があって、これは個人的な思いもあるんですが、新しい流れとしては、利水だけでなく、治水についても環境を非常に重視しようというコンセプトが欲しいなと思っています。川づくりの目標について、環境というフレーズがその2で出てきてはいます。ただ、「環境を考慮した利水・利用の推進」というだけではちょっと弱いというか、例えば、治水だって、環境を考慮して治水を考えるという発想がほしいなと思います。 | 「これからの川づくりの目標」には、利水だけでなく、治水についても環境を非常に重視しているという思いを入れて欲しい。 | 2712 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 私の認識では、1ページですけれども、ここに一番目がいくのではないかなと思います。河川法の改正として大きな問題、課題として入ってきたのは環境の問題だと思っております。これによって河川法が改正されたのではないかと私は思っています。そういうことであれば、ここにいろいろな形で河川整備基本方針とか、河川整備計画とか、この中に含まれているとは思いますが、ここで少し環境という字句をどこかに入れられないか。そうすれば、ある程度皆さんの声が行き届くのではないかなという気がします。あとのいろいろ細かく説明されていることにつきましては、私はそれで十分いけるのではないかと個人的には考えております。 | 河川法の改正点として、「環境」が一つのキーワードである。パンフレットのはじめの文章の中でも「環境」という概念を入れて欲しい。 | 2713 |
| 第27回流域委員会 | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 2ページのもの目標なんですね。目標というのは、これだけのことをしたいという、割と具体的なものです。それで、1ページに入れるものは、目標を決めるときの規範とか哲学のようなものですね。そういうものを前面に、1ページに出すということで折り合いがつくと思います。その中で、やはり流域委員会と環境という言葉はぜひ入れてほしいと思います。 | パンフレットのはじめの文章は河川整備の規範となる部分であり、その中に「流域委員会」と「環境」という言葉を入れて欲しい。 | 2714 |

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第27回

| 発言状況等 | 内容区分 | | | 回答 | 分野 | 発言要旨 | 主意 | I D |
|-----------|------|----|----|----|----------------------|---|---|------|
| | 質問 | 課題 | 提案 | | | | | |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | この資料の扱いとして、資料-1、これは委員会の議論の成果である必要があると思います。ただ、こちらのパンフレットの方は説明資料であって、これはあくまでも住民意見をいかにくみ上げるかという導入部分で、意見を踏まえてまだまだ幾らでも改善していかなければいけない部分だと思っています。流域委員会としての基本的な方向性のところは確認しておく必要があると思いますが、中身まで逐一皆さんで合意したものをパンフレットにしないといけないということは必ずしもないのではないかと思います。むしろ流域委員会の中で少し議論が分かれたようなところがあれば、どういう議論が分かれたかを明示できるような書きぶり、両論併記になるのか、あるいは後ろの方にこういう点が議論されたというのがわかるような形で書いていただければいいのではないかと思います。 | パンフレットの内容について逐一合意する必要はないが、流域委員会として基本的な方向性については確認しておく必要がある。むしろ、流域委員会の中で少し議論が分かれたような点について記載してみてもどうか。 | 2715 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 私などは、できるだけ多くのものを取り入れて、場所、場所で多様な対処の仕方を最後まで考えてくださいと言ったつもりです。そういう意見があったということを書き添えていただければと思います。この書き方は間違いないかもしれませんが、だめ、だめと書かれて、それで「住民の方、御意見はどうですか」と言ったら、この文章だったら、もうこれしか仕方がないとなる。意見も出てこないかもしれないので、「流域委員会でもこれとは違う意見がありましたよ。住民の方、どうですか」という形だとありがたいと思います。 | 治水対策（案）の検討では、住民から多くの意見を促すきっかけとして、委員会の中でも多様な意見があった旨を紹介して欲しい。 | 2716 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 今回の福井豪雨を経験したということもあるんですけども、やはり治水優先で、最終的にはダムをつくらうというふうなパンフレットだと住民の方は受け取られるのではないかと思います。環境とか地域との連携・協働による川づくりのこのページにすごく貧相な写真しかないんですね。これを見ただけでも、やはり環境という部分については後回しだなというイメージを持たれると思います。 | パンフレットは、環境や地域との連携・協働等と比較して治水優先のつくりとなっている。 | 2717 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | パンフレットの1ページ目には施策、2ページ目には目標と言葉があいまいです。パンフレットの2ページ目以降は具体的な例が多いので、これは目標でいいと思います。1ページ目については、目標じゃなくて規範です。どういう考えのもとで計画し、つくっていくか。これをやはりここでも時間の限り議論して、1ページに入れ込んでほしい。 | パンフレットのはじめの文章については、できる限り委員会で議論し、その内容を記載した方がいい。 | 2718 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 地域との連携・協働による川づくりですね。後から住民の意見聴取という課題が出ると思います。これが非常に重要なことだと私は思っていますが、ここには余りそれらしきものが出ていないと思います。一番最後に3行ほど書いてありますけれども、この辺、どうでしょう、もう少し明確に住民の意見聴取とか住民説明、積極的な住民との意見交換をしますよ、そういう環境づくりを進めていきますよということを明確に入れておいた方がいいのではないかと、非常に重要なことだと思いますので、お願いいたします。 | 「地域との連携・協働による川づくり」の中に、住民説明や意見聴取等の具体的な内容を記載してみてもどうか。 | 2719 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (説明資料・概要版) | 委員会の意見をすべて集約するわけにはいかないかもしれませんが、概要版の1、2ページ。これは少し、流域委員会としての環境とか流域、安全に対しての目標と言う前に、基本的な方向性という意識について、今日いただいた幾つかの御意見の中で、そういったものが流域委員会として思いを込めて入っていましたので、私としてはそれをつくらせていただく形をお願いしたいと思います。これはイグザンプルブロックというふうにとらえていますので。あと、県と国と絡む内容も含めたほかのブロックにつきましても、こういうものをベースとして作成して、概要版をつくる扱いとして描いておりますが、それでよろしいですね。 | 足羽川流域のパンフレット（概要版）については、委員からの意見をできる限り反映させ修正し、他の流域についても同様に作成していく。 | 2720 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (住民意見聴取) | 意見を聞く会に我々委員もオブザーバーとして出席せよということでしたが、一般の意見を聞く会のとき、委員に質問があった場合、委員長さん、どの会も出て説明していただけるのか。その辺、委員長代理と別れてやりなされるのかどうか。我々委員に難しい問題を問われてもわからないので、そういう技術的な問題については委員さんの中の権威者がその場に出られるようになるんですか。その辺をお伺いしたいと思います。 | 住民説明会等に委員はオブザーバーとして参加するということだが、委員に対して質問がきた場合の対応について考えておく必要がある。 | 2721 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (住民意見聴取) | 私の思っている感じで、あくまでも住民説明会では主催者側の説明を聞いて、住民の方の意見を皆さんに肌身に感じていただく。もちろん流域委員会の全体的な意見はどうなんだと聞かれれば、そこに参加された委員の方が思いをしゃべっていただければいいのかなというぐらい、私としてはそんなところかなという思いがしてはいるんです。 | 住民説明会等での委員は、住民からの意見を肌身に感じる事が重要である。もし、流域委員会としての意見を問われたら、そこに参加している委員が意見を発言してもいいのではないかと。 | 2722 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (住民意見聴取) | 住民の意見をできるだけ聞くということ、流域委員会の意見はどうかと聞かれたときにのみ答える。ただ、今日議論ができなかったんですけども、住民の方が恐らく基本姿勢のところ、なぜダムなんだとかいうことで意見を言ってくる可能性があるんで、そのときにばらばらの応答をすれば、ちょっとまずいかなと思っています。 | 委員は、住民からの意見をできるだけ聞くというスタンスが良い。流域委員会としての意見はどうかと問われた場合に、各委員がバラバラの返答をするのは問題である。 | 2723 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (住民意見聴取) | 資料-3にありますように、住民説明会の後にまた流域委員会で説明会の報告、あるいはそれに基づいた議論がなされることになっているわけですね。その中で我々はオブザーバーで、一メンバーということですから、「じゃ、流域委員会の意見としてどうですか」と聞かれたときに、果たして流域委員会の意見として、メンバーの1人の人がそれをうまく代弁して言えるのかどうか。非常にデリケートな発言になるかと思いますが、ですから、どういう意見が特に集中的に議論できたかということを我々が解釈、それから把握して、それをこの場でディスカッションするという形で、あくまでもやはりこれは住民説明会ということですから、議論する場ではないということを引きとって認識してもいいと思います。これはあくまでも意見を聞くという受身的な立場で、こういったところに問題点があるのかということとはメモをしておいて、ここで議論する。そういうスタンスでいいんじゃないかなと思います。 | 各委員が流域委員会の意見を代弁するのは非常に難しい。住民説明会等での委員は、あくまでも意見を聞くという立場で参加し、その時の問題点等について流域委員会で議論してはどうか。 | 2724 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (住民意見聴取) | 大略、そのような方向での説明であったり、問いかけであったり、それに流域委員会の皆さん方も参加して、臨場感も含めて意見の雰囲気なり内容も参考にして、また流域委員会に出されるそういうものについて意見を言って、そういうものの取り上げ方、そういうものについてまた審議を流域委員会としてはやるという扱いを位置づけとして描いていただくということでもよろしいですか。 | 委員は、住民説明会等にできる限り参加し、そこで出された意見や問題点を流域委員会に持ち帰って審議するというスタンスとする。 | 2725 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 維持管理 (河川管理施設) | この堆砂というのは成分、要するに古いダムだと、たまっているものがヘドロ化したりというのがあるんですけども、そういう水質調査というか土質調査はやっていないんですか。 | 堆砂土砂の成分について土質調査を実施しているのか? | 2726 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 維持管理 (河川管理施設) | 平成16年の真名川ダムが非常に上がっている。これはおわかりだろうと思います。全体の量からすると少ないですけども、1年間でこれだけたまっていきますから、非常に大きな洪水が来たということの証しだと思います。むしろこれだけの土砂が、もしダムがなければ洪水と一緒に下流に流れていたということですから、それだけ洪水をとめたということと、土砂をとめて、例えば下流の河床上昇をある意味では防いだという効果を十分認識した方がいいと私は思います。 | 平成16年の真名川ダムの堆砂量が1年間で非常に上がっているということは、非常に大きな洪水が発生した証拠である。この結果から、ダムが土砂をせき止め、下流河川の河床の上昇を抑えることにより洪水を防いだという効果を確認することができる。 | 2727 |
| 第27回流域委員会 | | | | | 地域との連携 (住民意見聴取) | 今のまとめ方なり、いろいろ広報、周知するもの、あわせて少し流域委員会の皆さん方から早急に御意見をいただくものをやらせていただいて、概ねそういう形で入れという了解を得たいと思っております。説明等々の日程は河川管理者さんで用意していただけたらと思いますので、それを案内いただいて、流域委員会の皆さん方も可能な限り積極的にそういうところに参加していただく。 | 今後の予定としては、これまでの審議内容を踏まえ、「九頭竜川水系の今後の河川整備に関する説明資料」やパンフレット（概要版）等を用いて住民説明会を実施していく。 | 2728 |